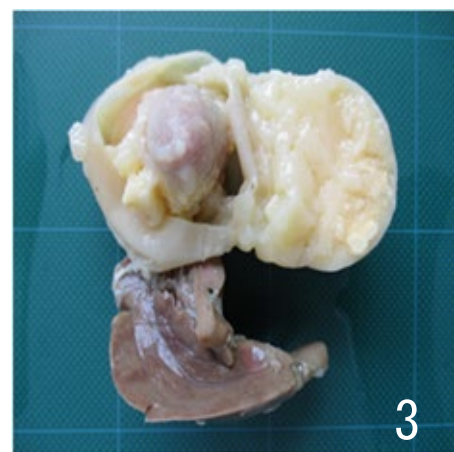
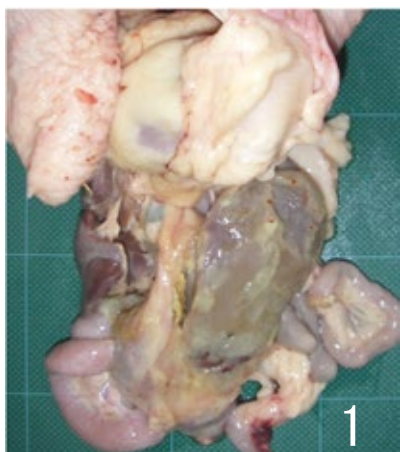


疾病 (異常)	10 大腸菌症
肉 眼 所 見	<p>1 漿膜炎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肝被膜、心膜や心外膜、体壁内側面などに黄白色混濁や肥厚が認められ、多くは相互に癒着している。 ・肝臓表面に黄白色の線維素性滲出物が付着していることが多い。 ・気嚢に線維素様物やチーズ様物が付着していることもある。 ・腸管漿膜面が不潔でぬるぬるし、時に体腔内に不定形の黄白色チーズ様物が認められる。 <p>2 蜂窩織炎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病変は、大腿部から腹部並びに胸部にかけて多く認められる。 ・病変部の皮膚は灰白色ないし黄色を帯び、腫脹・膨隆している。 ・病変は、び漫性に浸潤し、黄白色の滲出液や化膿性滲出物が認められる。 ・層板状ないし不定形の黄白色チーズ様物を入れていることが多く、出血による血塊が認められることもある。 <p>3 腹膜炎を併発した卵管炎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔は不潔感を呈し、卵管は黄白色チーズ様物が充満し、膨化している。
廃棄等の根拠	別表第10

疾病
(異常)

10 大腸菌症



肝臓には線維素性滲出物が付着し、心膜は白濁肥厚し、肝臓と癒着している。

肝被膜の黄白色混濁や肥厚が認められ、白濁した心膜と癒着している。

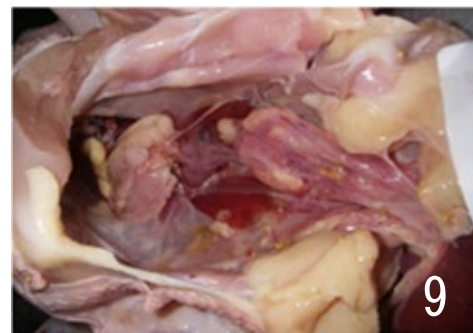
心膜が混濁、肥厚し、心膜腔に多量の黄白色ゼリー様物が貯留している。心膜と肝臓が癒着している。



多量の線維素性滲出物の滲出により、肝腹膜囊と心膜がそれぞれ混濁、肥厚している。

胸部、腹部、大腿部に腫脹、膨隆及び皮膚の部分的な黄色化が認められる。

No5の剥皮所見では、皮下織の広範囲に黄白色チーズ様物が認められる。



左脚から内股部にかけての皮膚の黄色化が認められる。

No7を剥皮すると皮下織の膠様浸潤、黄白色の化膿性滲出物が認められる。

腹腔は滲出液を入れ、不潔感を呈し、卵管にはチーズ様物が充満し、膨化している。